

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す

NO. 94

2022.3



ホルモン受容体陽性ハイリスク乳がん患者さんに対する 新たな術後治療選択肢の登場！！

乳がんの術後薬物療法は、乳がんの再発リスクを下げるために非常に重要な治療です。どの薬剤を使用するのかは、サブタイプ（乳がんの性質）やステージ（病期）、術前化学療法の治療効果などを検討し決定しています。治療薬の選択肢は、ホルモン薬、抗がん剤、抗HER2薬がありましたが、昨年末に、ホルモン受容体陽性かつHER2陰性タイプの乳がん患者さんの一部を対象に、CDK4/6阻害薬の一つあるアベマシクリブ（ベージニオ®）が保険承認を受けました。

対象となる患者さん

ホルモン受容体陽性かつHER2陰性タイプの乳がんの手術を受けられた方の中で、

腋窩リンパ節転移の個数が4個以上

もしくは

腋窩リンパ節転移の個数が1-3個
かつ
腫瘍の大きさが5cm以上
もしくは 組織学的グレード3

この条件に当てはまる患者さんは、従来のホルモン薬（5-10年間内服）とともに、ベージニオ®の2年間内服が勧められています。これはモナークE試験という世界中の患者さんが参加（日本人も参加）した大規模臨床試験で確認された結果を元に決定されたものです。現在もこの試験結果は追跡されており、今後の追加情報にも期待が掛かっています。

We will support!



サポート体制も充実

ベージニオ®は進行再発乳がん患者さんの治療薬としてすでに使用されており、我々には比較的馴染みの深い薬剤です。ベージニオの副作用として下痢等がありますが、当院ではオリジナルのパンフレットを作成し、患者さんの体調を電話でお聞きする取り組み等によって、日常生活に困らないような工夫をお伝えしています。

副作用対策を十分に行い、安心安全に2年間の内服を無事終わっていただけるよう、スタッフ一同サポートいたします。何かありましたら、当院までお問い合わせください。

市立貝塚病院

TEL : 072-422-5865

乳腺外科 大城 智弥



KAZUKA